

図1. 半径 r の円形速度弱化域で発生したエピソードすべりの継続時間. r_c は摩擦パラメータから決まる不安定すべり発生に必要な領域の臨界半径.

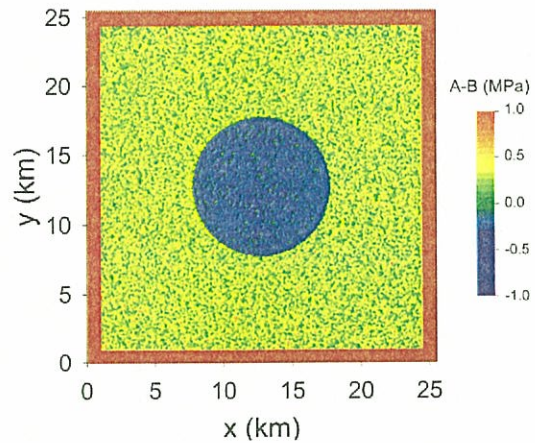


図2. モデル断層面上の $A-B$ の分布の例.

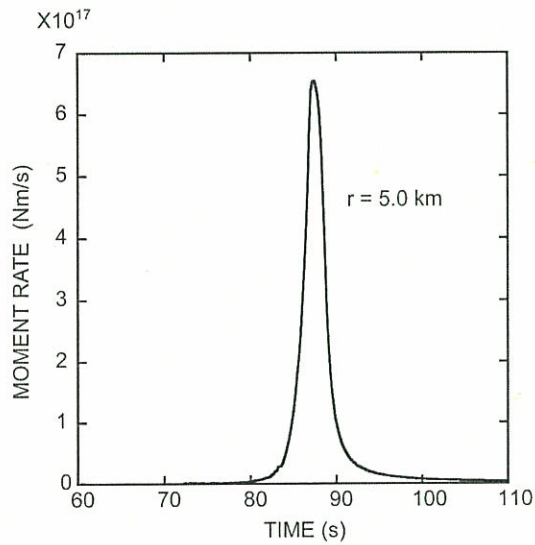


図3. 半径 $r=5.0\text{km}$ の円形速度弱化域で発生したエピソードすべりのモーメント解放率時間関数. $r_c=2.75\text{km}$.

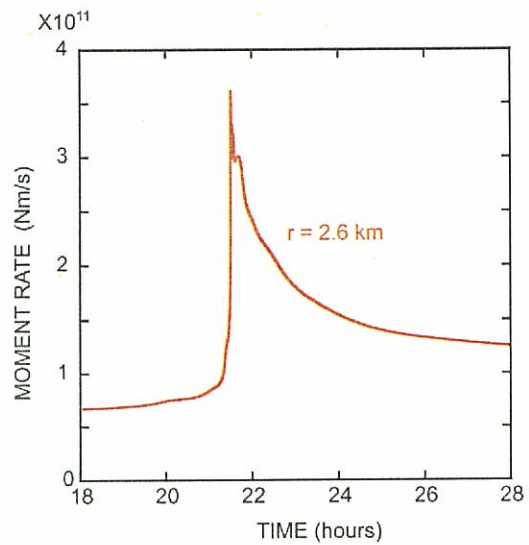


図4. 半径 $r=2.6\text{km}$ の円形速度弱化域で発生したエピソードすべりのモーメント解放率時間関数. $r_c=2.75\text{km}$.

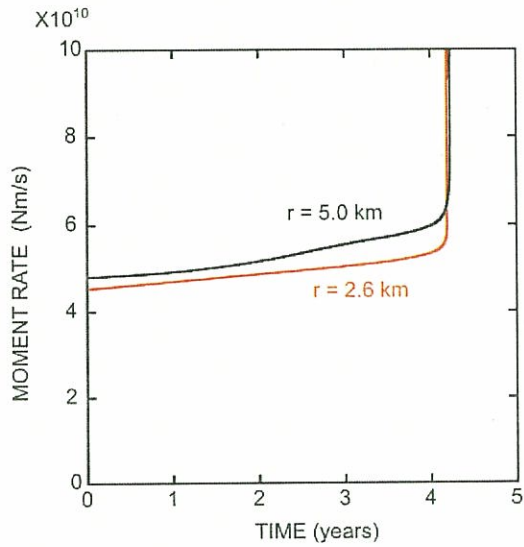


図5. 半径 $r=2.6\text{km}$ と 5.0km の円形速度弱
化域でのエピソードすべり発生前約
4年間のモーメント解放率時間関数.
 $r_c=2.75\text{km}$.

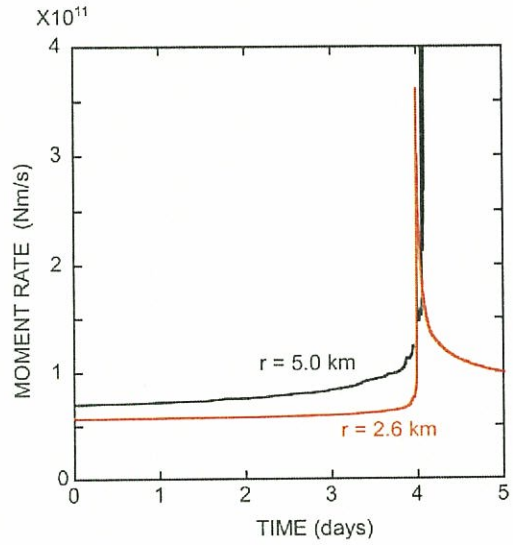


図6. 半径 $r=2.6\text{km}$ と 5.0km の円形速度弱
化域でのエピソードすべり発生前約
4日間でのモーメント解放率時間関数.
 $r_c=2.75\text{km}$.

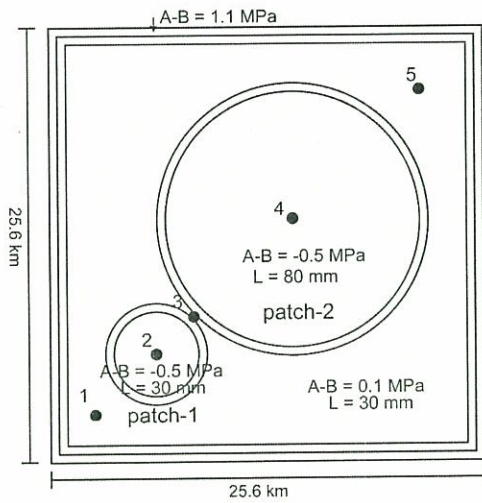


図7. 大きさと摩擦特性が異なる2つのア
スぺリティ (patch-1, 2) を仮定した断層モ
デル.

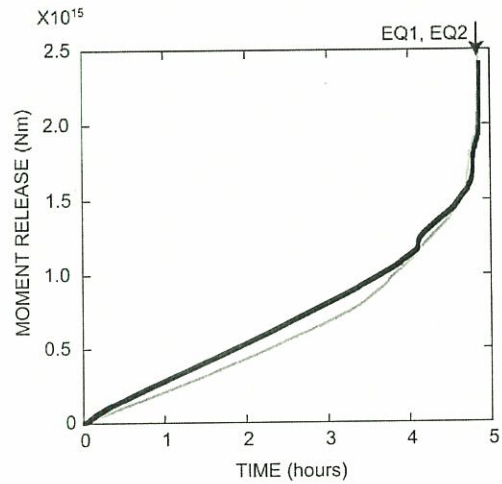


図8. 図7のモデルを用いたシミュレーシ
ョン結果. patch-1 のみが破壊された地震
(灰色) と patch-1, 2 両方が破壊された地
震 (黒) の発生前約5時間のモーメント時
間関数.